

2019年度いのちのセミナー 講師の方々

<p><b>第1回</b> 2019年6月2日(日) <b>柳家 花緑</b> 落語家 「いのち」を最大限に使い切る生き方 ～使う「いのち」が我々の“使命”～</p>		<p>1971年東京生まれ。9歳の頃より落語を始め1987年3月、中学卒業後、祖父である故・五代目柳家小さん入門。1994年、戦後最年少の22歳で真打昇進、花緑と改名。スピード感溢れる歯切れの良い語り口が人気で、着物と座布団という古典落語の伝統を守りつつも、近年は劇作家などによる新作落語や、都道府県落語を“洋服と椅子”という現代スタイルで口演する「同時代落語」にも挑戦している。また、落語会以外の活動も精力的に行っており、テレビ・舞台などでも、ナビゲーターや俳優として幅広く活躍中。著書に『花緑の幸せ入門「笑う門には福来たる」のか?～スピリチュアル風味～』(竹書房)など。</p>
<p><b>第2回</b> 2019年8月2日(金) <b>宮田 修</b></p>		<p>(今回参加者募集)</p>
<p><b>第3回</b> 2019年8月23日(金) <b>大津 秀一</b></p>		<p>(今回参加者募集)</p>
<p><b>第4回</b> 2019年9月5日(木) <b>金菱 清</b> 災害社会学者 東北学院大学教授</p>		<p>1975年大阪府生まれ。関西学院大学大学院修了。現在は東北学院大学教養学部地域構想学科教授。専門は災害社会学。阪神淡路と東日本と二度大きな震災を経験したことから災害について社会的に研究。特に石巻にてタクシードライバーが体験した幽霊現象の論考は、国内外問わず着目される。著書に、編著『呼び覚まされる霊性の震災学—3.11 生と死のはざままで』(新曜社)、『私の夢まで、会いに来てくれた』(朝日新聞出版)など。</p>
<p><b>第5回</b> 2019年9月27日(金) <b>吉田 実盛</b> 天台宗 鶴林寺塔頭 真光院住職 叡山学院教授</p>		<p>1961年兵庫県生まれ。1990年、龍谷大学大学院文学研究科仏教学専攻博士後期課程修了。兵庫大学短期大学部教授を経て、現在は天台宗鶴林寺塔頭真光院住職、鶴林寺宝物館学芸員。叡山学院教授。加古川刑務所宗教教誨師。死後の世界への手引き書として知られる平安時代の書「往生要集」に書かれた生と死をみつめる葬儀や法要を実践している。執筆に、『播磨の国宝』(神戸新聞総合出版センター)、『わかりやすい仏教保育総論』(チャイルド新社)など。</p>
<p><b>第6回</b> 2019年10月17日(木) <b>入江 杏</b> 世田谷一家殺人事件 被害者遺族 「ミシュカの森」主宰</p>		<p>国際基督教大学卒業。上智大学グリーンケア研究所非常勤講師、世田谷区グリーンサポート検討委員。2000年、世田谷一家殺人事件により、隣地に住む妹一家四人を失う。犯罪被害者としての悲しみ・苦しみと向き合い、葛藤の中で「生き直し」をした体験から、「悲しみを生きる力に」をテーマとする講演会等を開催している。また、「ミシュカの森」主宰として、悲しみの発信から再生を模索する人たちのネットワークづくりに努めている。著書に、『悲しみを生きる力に～被害者遺族からあなたへ』(岩波書店)など。</p>
<p><b>第7回</b> 2019年11月8日(金) <b>沼野 尚美</b> 宝塚市立病院 緩和ケア病棟チャプレン・カウンセラー</p>		<p>武庫川女子大学薬学部卒業。神戸ルーテル神学校修士課程修了。ケンシントン大学大学院行動科学研究科修士課程修了(心理学・カウンセリング修士号取得)。病院薬剤師から病院チャプレンおよびカウンセラーに転職。これまで10箇所のホスピスで勤務し、3,000人以上の方々と生と死に関わってきた。専門はがん患者とその家族の精神的援助と宗教的援助。著書に、『いのちと家族の絆』(明石書店)、『救いは苦しみの中にある』(明石書店)など。</p>
<p><b>第8回</b> 2020年3月15日(日) <b>米良 美一</b> カウンターテナー歌手</p>		<p>1971年宮崎県生まれ。3万人にひとり程度の割合で発症する難病、先天性骨形成不全症を持ち生まれる。1994年バツハ・コレgium・ジャパンの定期公演で教会カンタータを歌ってデビュー。洗足学園音楽大学卒業後、1996年よりアムステルダム音楽院に留学。カウンターテナー歌手として世界的にも評価されている。1997年「もののけ姫」の主題歌が大ヒット。第12回日本ゴールドディスク大賞、第21回日本アカデミー賞協会特別賞として主題歌賞をそれぞれ受賞。著書に、『天使の声～生きながら生まれ変わる』(大和書房)など。</p>

(敬称略)